



グラウンドに避難する児童たち。

5月26日、市内の小・中学校で大地震を想定した避難と保護者への児童生徒の引き渡し訓練が行われました。

この日は「県民防災の日」。1983年に秋田県沖を震源とするマグニチュード7.7の地震が発生し、多くの方々が犠牲になった日本海中部地震が発生した日です。

訓練では、14時に秋田県内陸南部を震源とするマグニチュード6.0の地震が発生したことを想定し実施。生保内小学校では、地震が発生したアナウンスが流れると児童たちは素早く机の下に隠れま

市内小・中学校で 一斉引き渡し訓練

もしもの時に備えて



災害発生時を想定し、初めて市内一斉に行われた引き渡し訓練。

した。そして、地震がおさまったことを知らせる放送を確認すると、先生の誘導に従いグラウンドに移動しました。

その後、帰宅の準備を済ませた児童たちは保護者の迎えを待つために生保内中学校の生徒とともに体育館に。15時になると迎えのメールを受けた保護者が次々に訪れ、学年ごとの受付で氏名を確認後、一緒に帰っていきました。

4年の佐藤茉柚璃さんは「放送でびびりしただけ、避難することができた。実際に地震が起きたら素早く避難したい」と話しました。



作品をじっくり見る来場者。

5月28・29日の2日間、思い出の湯分校を会場にたざわクラフト市が開催され、県内の作家を中心に約30ブースの出展がありました。

このたざわクラフト市は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して3年ぶりの開催となりました。

会場には、土鈴や布小物、木工、陶器、編組細工、ガラス細工、キャンドル、お菓子など、手作りの作品が展示・販売され、2日間で約1000人の来場がありました。会場を訪れた人は、お目当ての作品を手にとって作り手との会話を楽しんでいたほか、作り手の皆さんも久々の再会を楽しんでいました。

実行委員長を務める桜田祐美さんは「私の思いに多くの方が協力してくれ開催できた。半分の出展に抑えるなど、工夫しての開催となった。コロナ禍前は、外にテントを張った出店もあったことを思うと、ちょっと寂しいところもあるものの開催できたことに、ほっとしている」と話しました。

たざわクラフト市

思い出の湯分校で3年ぶりに開催

表紙の写真から

初心者から上級者まで 国内初！砂防堰堤を活用した ボルダリングウォールがオープン

市民の健康増進と観光誘客を目的に新しいアウトドアコンテンツの一つとして市が整備を進めていたボルダリングウォールが完成し、5月21日、オープニングセレモニーが行われました。

この施設は、国土交通省湯沢河川国道事務所がたざわ湖スキー場水沢グレンデ中腹の水沢リフト脇に整備を進めている「水沢第2砂防堰堤」の壁面を活用したもので、砂防ダムへのボルダリング施設整備は全国でも初めての取り組みとなります。

セレモニーでは、田口市長のあいさつに引き続き、湯沢河川国道事務所の目黒所長から「砂防施設は山の中、沢の中で人知れず工事しており、役割や我々の取り組みが知られていない。スキー場からも見える観光地としての環境を含め、この地域で何らかの形で一緒に取り組み、観光で訪れる方の楽しむコンテンツの一つとして、我々が取り組む砂防についても知っていただく期待も込めて相談したところ、快く応じていただき、き今日の日を迎えることができた」と、あいさつがありました。



バランスを取りながら上手に移動する子どもたち。

2020ボルダリングコース日本選手権3位となった佐藤凜さん（秋田市）が、コース攻略のアドバイスをしながらデモンストレーションを披露しました。佐藤さんは「初級コースは初心者の方でも楽しめる設定で、中級コースの途中から難しくなる。上級コースでは、掴みにくいホールド設定になっていて、初心者から上級者まで楽しめる設定になっていく」との感想をいただきました。

その後の体験会では、子どもたちが初級コースからスタートして、自然石を使ったホールドという突起物に足を乗せたり、掴んだりして水平方向に移動して、中級コース、上級コースに挑戦していま

した。はじめのうちは、子どもを見守っていた保護者も挑戦する光景が見られました。

このボルダリングウォールは、垂直方向に登るタイプとは違い横方向に横断するコースとなっている。延長は約30メートル、足をかけるホールドは高くて50センチメートル程度で、地面には細かな丸い砂利が敷き詰められていて、落下してもクッションの役割をしてくれます。一般利用は予約などの必要はなく無料となっていますので、たくさんのご利用をお待ちしています。

なお、団体での利用については、あらかじめ田沢湖スポーツセンターに確認のうえ、貸切利用が可能です。貸切利用の問合せは田沢湖スポーツセンター（☎46・2001）までお願いします。

観光に生活に ぜひご利用ください

よぶのる角館がスタート

スマートフォンでの予約
(TOHOKU MaaS)



電話での予約 ☎070-7051-6172



5月17日から観光で訪れたお客さまや市民の皆さまにご利用いただける、角館オンデマンド交通「よぶのる角館」が運行を開始し、角館庁舎で出発式が行われました。

よぶのる角館は、予約に応じて運行する乗り合い交通サービスで、仙北市とJR東日本が共同で運営します。

角館駅・武家屋敷周辺のフリー乗降区域において、1回300円でどこでも乗降ができるほか、フリー乗降区域外でも、角館温泉花葉館や抱返り溪谷など7か所の乗降箇所でも乗り降りできます。

出発式に出席したJR秋田



角館庁舎前で行われた出発式。

支社の木村英明支社長は「自治体との共同運営は初めてで喜ばしい。角館は日本でも有数の観光地。訪れる多くの観光客に役立ててもらいたい。また、角館にお住まいの方々にも日々の生活の中で気軽に利用してもらいたい」と話しました。

予約は電話のほか、JR東日本が提供するサービス「TOHOKU MaaS」（上記の二次元コードを参照）からスマートフォンでも可能です。予約方法やフリー乗降区域などの詳細は、仙北市ホームページまたは広報5月16日号の折り込みチラシをご覧ください。

栄光・表彰 ～輝くとき

第10回日本医師会赤ひげ大賞に全国から5人 西明寺診療所 市川晋一所長が受賞

西明寺診療所の市川晋一所長が、第10回「日本医師会赤ひげ大賞」を受賞しました。

この赤ひげ大賞は、地域に密着して人々の健康を支えている医師の功績を称えるもので、全国の都道府県医師会から推薦された候補者から、さらに選考された5人が大賞に選ばれています。

延期となっていた表彰式が、5月12日に東京都内で開催され、5月23日には市役所角館庁舎を訪れ、田口市長へ受賞を報告しました。

市川所長は「この受賞は、私一人だけ

のものではなく、皆さんのおかげ。患者さんが来てくれないと診療所は成り立たず、診療所は病院があつての診療所、さらに包括的な支援を含めた市のバックアップがあつてこそこのことで感謝しています」と話しました。また、秋篠宮皇嗣殿下や岸田文雄首相が出席した表彰式では、緊張してしまいスピーチが早口になってしまったエピソードなども交えた報告となりました。

報告を受けた田口市長は「地域医療を支えるうえで、市川所長はなくてはならない存在。とてもありがたい」と話しました。



赤ひげ大賞を受賞した市川晋一所長。